

第4回多治見市かわまちづくり協議会議事録

(要点筆記)

- 開催日時 令和3年12月22日(水) 午後2時00分から午後3時40分まで
- 開催場所 多治見市産業文化センター 5階大ホール
- 議 事
1. あいさつ
 2. 議題 (1) かわまちづくり計画(素案)について
 3. その他(1) 推進・維持管理体制について
(2) 社会実験について
(3) 今後のスケジュールについて
- 会議の公開 多治見市情報公開条例(平成9年条例第22号)第23条の規定により公開
- 出席委員 山本 真行、水野 利之、城下 真由美、加藤 聖規、水野 高明、木本 真義、若尾 茂希、岩塚 慎二、加藤 敬次、飯田 道広、樫野 誠、竹原 雅文、知原 賢治、長江 信行、今尾 哲 (敬称略)
- 事務局 多治見市建設部道路河川課・経済部産業観光課
国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所調査課

発言者	発言内容
1. あいさつ	
多治見市建設部 渡辺課長	<p>12月議会で、市長が「かわまちづくりプラス犬（ドッグ）」について話した。人や犬が集い、魅力ができることで、移住・犬住を促していこうというものである。</p> <p>本日は傍聴人として地元の方が興味を持って来ていただいた。市民からも期待を寄せていただいているのだと思う。</p> <p>本日の協議のなかで、具体的な整備後のイメージ図を見ながら、多くの意見をいただければと思う。来年には計画を完成させるため、事務局として最終取りまとめに向けて頑張っていくので、ご協力をお願いしたい。</p>
庄内川河川事務所調査課 佐伯課長	<p>第3回の協議会ではキーワードとして、「ここがHotな多治見のくーるスポット」として方向性を確認した。本日は、ハード整備にあたって事務局案を提示するので、是非、利活用の観点からご意見をいただければと思う。</p>
2. 議題(1) かわまちづくり計画（素案）について	
事務局	(資料の構成と変更箇所について事務局から説明)
委員	川沿いの散策路が行き止まりになるのではなく、修道院・永保寺まで歩いて行ける回遊ルートが確保できているのであれば良い。
委員	施策は期待できるものがあり、またバランス良く掲載されているので良い。
委員	前回の検討結果を踏まえて施策が掲載されているので良い。
委員	いろんな観点から施策が挙がっていて良い。
委員	多目的空間（以下「広場」）だけではなく、虎溪山エリアまで川に沿って線で結ばれているのは良い。記念橋から上流に向けての散策路整備について、私有地の問題が解決されているのかが気がりである。
委員	議論していたアイデアが施策となっているので良い。Hotの注記として、「全国一暑いまち」は誤解をまねく可能性もあるので、「全国有数の暑いまち」等、表現を検討されると良い。
委員	施策として永保寺までエリア全体が含まれているので良い。イベント等の計画にあたって、河川の線的な利用だけではなく、エリア全体の面として活用ができる。
委員	議論していたアイデアが網羅されているので良い。夢のある計画となり、是非実行していきたい。

委員	<p>コンセプトも面白みがあり、印象が残るので、市民に広く知ってもらえるように、現地での表示等においてインスタ映えするスポットとして工夫し、拡散しやすいものにとすると良い。</p>
委員	<p>アイデアが具体的な絵となってきたことを嬉しく思う。記念橋から虎溪山エリアが一体的な案となっているので良い。</p> <p>ただ19号線沿いに大規模商業施設ができることもあり、道路の混雑状況を地元として心配している。</p> <p>多くの方に来ていただくためには、駐車台数の確保が課題となるため、周辺の商業施設と連携して、遠方からの来訪者をどう受け入れるかを検討していく必要がある。</p>
委員	<p>基本方針、ソフト施策についてはこれまでの議論が踏まえられているので良い。ハード施策については様々な課題を解決し、進めていく必要がある。</p>
委員	<p>散策路については私有地との境界を明らかにしていくことが課題である。</p> <p>観光の目玉となる修道院・永保寺へのルートを確保すると共に、河川内の制約条件もあることから、既存道路も活用しながら進めていくと良い。</p>
委員	<p>議論したことがしっかり反映されているので良い。課題はあると思うが、必ず実現できるように皆で協力したい。</p>
事務局(佐伯課長)	(多目的空間と散策路の整備について事務局から説明)
委員	<p>整備イメージ案1・案2によって利用できる広場の面積は、変わるのか。案1の場合は階段に座り、広場を眺められるので利用面では利点がある。</p> <p>整備イメージ図にあるねずみ岩から連続して桜が咲いているイメージが良い。難しいと思うが、虎溪大橋まで続くと桜の名勝になり、非常に良い。</p>
事務局(佐伯課長)	案1は階段護岸を整備する分、広場面積が狭くなる。
委員	<p>どちらの案でも河川管理上の問題はないということで良いか。階段護岸の天端は水が浸からないということで案1の方が良いと思うが、駐車場台数の確保が課題となる。</p>
事務局(佐伯課長)	<p>河川管理上は広場の植樹についてこの程度であれば、問題はない。例えば、階段護岸の上にも駐車場を確保しているが、それを上流側へ延ばすことも考えられる。しかし、広場が小さくなることと、盛土部分が増えると河川の流下阻害となってしまうため、ここまでが限界かと思う。一時的なイベント利用の際</p>

	には広場のなかへ車を入れる等の対処方法が考えられる。
委員	駐車台数が少ないと違法駐車も増えてしまうため、26台でも足りるのか心配である。場合によっては、広場への車の乗り入れも考えられるのか。
事務局(佐伯課長)	イベントの内容によると思うが、広場への乗り入れも可能と考える。
委員	散策路の区間3について、一部階段の所があるが、車いすの方も入れるように、片方をスロープにできると良い。 広場の所で散策路と車の動線が交差する所について、安全対策が必要に思う。
委員	駐車場の必要台数のシナリオ3では22台ということだが、イベント時には少ないように感じるので、周辺の有料駐車場なども含めて検討すると良い。
委員	イベント時に多くの方に参加いただくためには、より多くの駐車台数が確保できると良い。 また、散策路について街灯を設置する予定はあるか。夜桜見物や夕方以降の散策も多いこと、散策路が川岸に近いので、安全性を確保する視点から、視認性を高める必要がある。
事務局(佐伯課長)	今のところ、街灯の設置は検討していない。川の流下阻害となるため、街灯の高さや構造などの条件がつく。
委員長	周辺の商業施設との連携を念頭に置きながら、駐車場や混雑対策など、今後、合意を得ながら実施していく方向で良いか。
事務局(佐伯課長)	現時点で周辺商業施設に了承を得たものではなく、今後、整備と平行して協力を得られるよう協議していく必要がある。
委員	散策路の区間1については私有地となっているのではないかと。
事務局(佐伯課長)	今後、国と所有者との境界を確定していく必要がある。所有者に散策路を整備することは了承を得ている。
委員	かごマット護岸というのはどのような形状のものか。また、桜は新たに植樹するのか。
事務局(佐伯課長)	石が敷き詰められたものであり、色合いとしては整備イメージ図にあるようなグレーとなる。現状でも桜が植わっているため、これを活かしていく方向である。
委員	美濃加茂市のリバーポートパークでは駐車場が約180台あり、そこまでの規模は必要ないと思うが、イベント等を想定するともう少し台数が必要なことは事実である。 周辺企業の所有地において、コインパーキングを設置してもら

	うなど、周辺事業者との連携が必要である。
委員	<p>イベント時には駐車場が必要だとは思いますが、高頻度にイベントを開催するわけでもないと思うため、車をどう誘導するか、ソフト的に対処する考え方もある。商店街や市役所から記念橋へ誘導する等、歩いて行くことも含めて考えたい。広場に駐車できてしまうとここにしか滞在しないため、まちから歩いていく、回遊性という観点で対処した方が良い。</p> <p>整備イメージ案1の護岸が続いていた方が、福祉施設側にとっても安心である。下流から歩いて行った時に、桜並木やほっとできるような広場が開けていると良い。ただ、段差の解消や傾斜を緩やかにできると良い。</p>
委員	<p>イベント時の車の対処法はいろいろと考えられるが、イベント時に駐車場が必要なのは確かなので、商業施設との連携を含めて考えられると良い。また、ソフト施策のレンタサイクル事業の展開や、バリアフリーの観点から散策路の階段を解消できると良い。</p>
事務局(佐伯課長)	一部、スロープにする等の工夫は可能だと思う。
委員	<p>治水的な観点から、案1は階段護岸となるが、案2のように護岸をつくらなくても治水的には問題ないということで良いか。また、駐車場への進入路は階段護岸を乗り越える傾斜路となっているが、そこから水が浸入することはないのか。</p>
事務局(佐伯課長)	<p>現状でも治水的に問題はなく、案1は親水の観点から提案するものである。</p> <p>進入路の箇所は地盤が高くなっており、また周辺に住宅等がないことから、浸水の問題はないと考えている。</p>
委員	<p>広場や散策路は冠水することを前提に、冠水頻度を考慮した整備内容となっている。また、河川管理上、広場を盛ることはできない。案1の階段護岸の天端について広さがあれば活用できると思うが、広さ6mぐらいが限界である。</p> <p>使用目的によって異なるが、平日利用では駐車場は13台で十分であり、イベント時では広場のなかに車を入れることや、天端が6mあるのでそこへキッチンカーや車を並べることも可能である。</p> <p>散策路について区間1・2については広さも確保できるが、竹林を抜けると、川岸に近くなるので手すりをつける等の安全対策が必要になる。しかし洪水時には手すりが壊れたり、維持管理が</p>

<p>委員</p>	<p>課題となる。</p> <p>本日の議論としてルートや拠点の方針の方向性が押さえられればと思う。拠点の検討のポイントとなるのが冠水頻度であるが、広場内は水が浸かるが、想定されている洪水時において現状の擁壁の高さよりも下に赤線があるので収まっていることが分かる（25頁参照）。</p> <p>今年8月の洪水時は青線的位置まで水がきたが、洪水により広場に土砂が堆積したり、大きな石が流れてくると思われるので、掃除や手すり等の修繕が必要と思われる。今後、広場の清掃や修繕を誰が行っていくかということが課題であり、運営を含めた仕組みづくりが必要と考える。</p> <p>また街灯についてはポールが折れたり、ゴミ等の清掃が必要となるため、確認は必要だが、河川管理上は高さがあるものは付けることができない。例えば、歩道に埋め込むソーラー式等であれば、夜間のルートが見える。そういった形式を工夫すれば設置の可能性はあるが、国土交通省では整備しないため、費用等を含め役割分担が必要である。</p> <p>駐車場についてはイベントの目的にもよるが、住民を対象とするのか、市外から呼び込むのか、今回は大きなイベントが目的ではなく、駅、商店街からの回遊性が大きな目的と思われるため、現状ではこの程度の台数でも良い。</p>
<p>委員</p>	<p>今年8月の洪水時は越水することはなかったが、現状のスロープは水に浸かり、施設の駐車場から手で触れられる所まで水が来た。また、大きな岩やゴミが流れ着いている。</p> <p>福祉施設の利用から言うと、既存のスロープでは車いすで広場に出ることができない。このため、現状と変わらない案2では、福祉施設側にとって利活用ができない案となってしまう。そういった状況のなかで、逆にイベントの音や夜間のライトで居室が照らされる等、生活している側にとっては迷惑となる。また女性職員が多いので、防犯面から監視カメラやフェンス等、対策を強化しなければならない。</p> <p>夜間は広場を閉めることができるか、若者が夜間に来て騒ぐなどの迷惑行為が心配である。</p> <p>案1では福祉施設側にとって、駐車場側から広場に入りができるので利活用が増えるため、非常にメリットがある。駐車台数の課題があるが、美濃加茂市の事例ほど広大なエリアでもないた</p>

	め、イベント時に広場に乗り入れる等の対処法が考えられる。
副委員長	<p>樹林帯の自然観察ゾーンについて、撤去できないため、樹林を残してあるのか（13頁参照）。11月のイベント時に現場を見たが、あまりにうっそうとしているため、野鳥観察のための樹林とはならない。逆に手を入れた方が、福祉施設側から水面がみえる等の景観配慮となる。また、駐車台数を確保するために、自然観察ゾーンを減らしても良いのではないかと。</p> <p>また、人目につかない場所であることや、まちなかは街灯が少なくても歩けるが、上流は暗くて見えないため、防犯性の観点から街灯が設置できると良い。</p>
委員長	<p>広場整備の方向性の参考として、挙手による委員意見の把握を行った。（委員長除く、整備イメージ案1は11人、案2は3人）</p> <p>今後、委員意見を踏まえて案について再検討を行っていくものとする。</p>
3. その他	
事務局	(推進・維持管理体制について事務局から説明)
委員	ハード整備のメニューについて、利活用を想定すると、トイレ・水場があると良い。
副委員長	<p>(広場での社会実験報告について説明)</p> <p>子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加があり、ゆっくり自然観察をしながら散策を行った。昼食を挟んでのイベント実施であったため、トイレ利用の問題があった。産業文化センターや周辺店舗への協力を得たが、今後の活動展開にあたってはトイレの確保が課題となる。</p>
委員長	広場への出入口について、検討状況はどうなっているか。今後の希望として、広場から永保寺まで川沿いに散策路ができるとう良い。
事務局(木村課長)	出入口にあたる土地について、所有者との交渉を行っている。確保できるよう市としても動いている。
事務局(渡辺課長)	(今後の予定について事務局から説明)
委員長	第4回多治見市かわまちづくり協議会を終了する。